ふくおか古代テクノロジー
FUKUOKA ANCIENT TECHNOLOGY
第4回

古代ハイウェイ、官道を往く

古代の道といえば、人一人がやっと通れるような小道を想像しませんか？実は、場所によっては現代の4車線道路に匹敵するような大きな道が、都のあった近畿地方から各地方の拠点まで伸びていたのです。今回は、この古代の道である「官道」を探るために、みやこ町を訪ねました。

国の権威の象徴

官道とは、7世紀後半、都と地方を最短距離で結び、物流や軍隊の移動をスムーズに行うために全国規模で整備された道路のことです。中でも重要とされたのが都と大宰府を結ぶ山陽道と西海道でした。その要衝を担ったのが、みやこ町を通る西海道豊前路です。現在の県庁に当たる豊前国府や国分寺などの重要な施設は、この官道沿いに整備されました。驚くべきは、その道幅。最大12メートルにも及び、現在の4車線道路に匹敵します。物流や軍隊の移動のためだけなら、これほど大きな道路は必要ありません。どうやら、官道は外国からの使者や地域の豪族、住民に対して、「国の事業はすごい」と思わせる権力の象徴であったようです。

みやこ町の官道推定ラインと関連遺産

官道は、現在ではその姿をほとんど見ることはできなくなったが、「菅原道真が通ったかも…」など、想像を膨らませながら現地を巡るのも面白い。

1 甲塚方墳
【かぶとづかほうふん】
6世紀後半に築造された九州最大級の方墳。墳丘の方位は、主軸がほぼ南北方向を向いている
（写真提供：みやこ町教育委員会）

2 豊前国府跡
【ぶぜんこくふあと】
奈良時代に豊前国に設置された国の役所跡。都から赴任してきた国司が政治を執り行った
（写真提供：みやこ町教育委員会）

3 豊前国分寺跡
【ぶぜんこくぶんじあと】
奈良時代、聖武天皇によって全国の国ごとに建てられた官寺の一つ。戦国時代に消失したが、江戸時代に復旧し、現在の三重塔は明治時代に建て直された

4 カワラケ田遺跡
【かわらけたいせき】
東九州自動車道建設に伴い、実施した発掘調査では、大宰府から豊後国府とを結ぶ幅9メートルの官道跡を確認した
（写真提供：九州歴史資料館）

高速道路と重なる官道

官道の特徴は道幅だけではありません。都と各地方の拠点を最短距離で結ぶために、ひたすら直線的に整備されました。中には直線距離が30キロメートルに及ぶところもあります。丘陵は掘削し、くぼ地を埋め立て、川には橋を架けるなど大規模な土木工事が行われました。そのルートは、現代の高速道路と重なる部分が多く、実際、みやこ町の「些見地区官道跡」は東九州自動車道のみやこ豊津インターチェンジと同じ位置にあります。

九州の官道推定マップ／古代の西海道のルート。現代の高速道路や幹線道路と重なる点が多い。現在の日本の高速道路網が総長6500キロメートルに対し、官道は6300キロメートルと、その距離がほとんど変わらないのは驚きだ

当時の最新技術を駆使

このように大規模な官道整備は、何らかの専門的な技術者集団が関わり、その技術は大陸からもたらされた当時最先端のものだったと考えられています。官道の遺構からは路盤補強の跡である波板状遺構や、アスファルトのように黒色土を敷き、つき固めた跡も発掘されました。また、排水のために側溝を設けるなど、現代の道路と変わらない工夫も施されていました。

些見官道発掘調査／東九州自動車道の工事の際に発見された官道。道路の断面を見ると異なる土をつき固めているのがわかる
（写真提供：九州歴史資料館）

カワラケ田遺跡から検出された波板状遺構
（写真提供：九州歴史資料館）

古代の鋤／みやこ町で出土した5世紀のスコップ。時代は異なるが道具の形はそう変わらない。このようなものが官道工事に使われていたと思われる

官道は駅伝のルーツ？

官道では、「駅制と伝馬制」という交通システムが敷かれました。「駅制」とは、都と地方を結ぶ緊急通信制度。およそ16キロメートルごとに設けられた「駅家」には、宿泊施設や人、馬を配置し、馬を乗り継ぐことで、いち早く情報を伝えることができたのです。一方、「伝馬制」は、都から特命任務を帯びた使者を地方へ送迎する交通制度。郡家（郡の役所）ごとに置かれた馬を乗り継ぎ目的地へ向かいました。

このような古代の交通システムと、中継地点間の速さを競い、襷を渡すスタイルが似ていることから、「駅制と伝馬制」はスポーツの「駅伝」の語源になったという説があります。

みやこ町歴史民俗博物館

〒824-0121 みやこ町豊津1122-13
☎0930-33-4666 ファクス0930-33-4667
［開館時間］9時30分～17時（入館16時30分まで）
［休館］月曜・祝日の翌日・年末年始

学芸員 井上信隆さん

「京築地方は古代においては、瀬戸内海の後方支援基地であり、都と大宰府、宇佐を結ぶ拠点地域でした」と語る

郷土の歴史と暮らしに触れる、楽しむ。

みやこ町歴史民俗博物館内では、みやこ町出身で、夏目漱石の門下、ドイツ文学者、文芸評論家であった小宮豊隆の資料1000点を展示した「小宮豊隆記念展示室」をはじめ、みやこ町の古代から近代までがわかる歴史コーナーや、祭事や信仰、昔の生活道具を集めた民俗コーナーなど、みやこ町が誇る文化遺産を展示しています。また、古代建築風の壮麗な建物は、この地に古代文化の拠点「国府・国分寺」が置かれていたことをほうふつとさせます。